

児童画の国際交換・対ドイツ連邦共和国・昭和30年代 — 公文書による —

A Study on the International Exchange through Children's Drawings
Between Japan and Federal Republic of Germany in the Syowa 30's
- Based on the Official Documents -

草 尾 和 之

Kazuyuki KUSAO

美術教育講座

(平成17年9月30日受理)

The Diplomatic Record Office of the Ministry of Foreign Affairs (Azabudai 1-5-3, Minato-ku, Tokyo) opened the files of diplomatic documents to the public on June 15, 1998.

It is the 14th opening in total to the public. I investigated "I-1-5-4-5" which was one of those files. As a result, I discovered the documents concerning the international exchange of the children's works between Japan and Federal Republic of Germany in the Syowa 30's.

They are concerning the following three.

1. Presentation from the West Berlin City Wedding district City to Fuse City, in 1960
2. Exhibition of animal pictures and prints of Japanese children held in Frankfurt zoo in 1958
3. Exhibition in Paul-Gerhardt Schule in Bonn City by work which "the Japan-Germany youth exchanging courtesies dispatch group" presented, in 1960

In this text, I described understanding by reading the documents for these three businesses.

はじめに

児童画の国際交換とその展覧会に関する事業は、すでに昭和前期あるいはそれ以前から、様々な分野の人々の力によって、様々な意図や情熱を込められて、今日に至るまで連続と続けられてきた。しかしそのほとんどは顧みられていない。私は美術教育が国際交流に果たした役割という観点から、またわが国の美術教育は外国から如何に評価されてきたかという観点から、児童画の国際交換とその展覧会に関する事業を調査・研究している。そしてそれらの事業がいかなる意図で成されたのか、日本の児童画は外国においてどのように評価されてきたのか、時代ごとにその特色を明らかにしたいと考えている。

具体的に昭和戦後期についてはわが国の外務省外交史料館が所蔵する史料を中心に調査

している。同館が所蔵する史料『学生・生徒及び児童作品展覧会関係雑件（I' 門1類5項4目5号）』は、外務省外交史料館¹⁾の平成9年度外交記録公開（平成10年²⁾6月15日《月》付、通算第14回公開）によって初めて公開された文書ファイルである。私はこれを調査して、これまで次の2編をまとめた。

① 「アジア・アフリカ民族展覧会（昭和33年）－公文書による児童画 国際交換の研究－」（平成16年2月、「福岡教育大学紀要」第53号第5分冊、福岡教育大学）

② 「児童画による国際交流・対中南米諸国・昭和30年代－公文書による－」（平成17年2月、「福岡教育大学紀要」第54号第5分冊、福岡教育大学）

本稿は上の2編に続くもので、前掲の史料ファイルからドイツ連邦共和国に関する事業を調査し、考察するものである。

同ファイルは2巻からなる。2巻を通して国別に22の見出しが設けられ、それぞれに文書が発行日付順に綴じられている。今回、ドイツ連邦共和国（当時の“西ドイツ”）に関して見出すことができた事業は合計3件であるが、本稿では時間順ではなくファイルに綴じられた順に扱うこととする。また「文書1-1」「文書1-2」などの名称は、煩雑になるのをさけるため、本稿筆者が本稿内に限り仮に付けたものである。

1. 昭和35年、西ベルリン市ヴェディング区から姉妹都市布施市への寄贈

史料ファイル内に設けられた目次の第2番目に「本邦」という見出しがあり、ここに昭和35年に西ベルリンのヴェディング区（現ベルリン市ミッテ区）から大阪府布施市（現東大阪市）に児童の絵画が寄贈されたことに関する文書が収められている。それは次の3件である。

◆「文書1-1」

1960年8月4日付け

「Aufstellung der Arbeiten Weddinger Schüler für die Ausstellung in Fuse / Japan」

◆「文書1-2」

公信番号情文第997号 公信日付昭和35年9月2日

受信者 大蔵省主税局税関部長

発信者 情報文化局長

写送付先 布施市市長、大阪税関長

「西柏林市より布施市へ寄贈の学童絵画簡易通関方依頼の件」

◆「文書1-3」

伯総第498号 昭和35年8月20日付け

外務大臣小坂善太郎あて

在ベルリン総領事曾野明名義

「布施市へ寄贈の西柏林市ヴェディング区学童絵画簡易通関方依頼の件」

上の文書により、次のことがわかる。

この事業が行われることになったのは、西ベルリンのヴェディング区と大阪府布施市とが姉妹都市の関係を結んだ³⁾からで、「親善の爲め相互に展示会を開催する目的で⁴⁾」同区の学童絵画132点が布施市に寄贈されることになった。「文書1-1」はその作品リストで

ある。本稿末に拙訳を（別表1）として付ける。

それらの作品は木箱4個に納められて、昭和35年8月20日ハンブルグ出帆の大阪行きドレスデン号にて布施市長あてに発送されることになった。その際、ヴェディング区の区長から在ベルリン日本国総領事館に対して、それらが日本に到着した際に簡易通関等の便宜供与を受けられるようにとの願い出があった。同館は本省に対し「文書1-3」で取り次いだ。これをうけて本省は大蔵省主税局税関部長あてに「文書1-2」を発行し、その中で「日独友好関係増進の為め極めて有意義と考えられます」として、簡易通関の扱いを依頼した。なお、「文書1-2」の欄外に「布施市役所企画審議課松村」「昨年八月姉妹都市となった記念に児童画交換」「作品到着后公会堂等で展示」と書き込みがあり、児童画を交換することになった契機のほか、布施市における展示会場も知ることができる。

なお、その後、布施市は昭和42年（1967年）に河内市および枚岡市と合併し東大阪市となり、また一方のベルリン市ヴェディング区も平成13年（2001年）にアガルテン区およびミッテ区と統合されて新たなミッテ区となっているが、両者の姉妹都市関係は現在も存続している。

2. 昭和33年、フランクフルト動物園における日本児童の動物絵画展

史料ファイル内に設けられた目次の第9番目に「ドイツ」という見出しがあり、ここに昭和33年にフランクフルト動物園において開催された動物を主題とする日本児童の絵画と版画の展覧会に関する文書が収められている。それは次の17件である⁵⁾。

◆「文書2-1」

独第121号 昭和33年2月14日付け
在ドイツ特命全権大使武内龍次名義
外務大臣藤山愛一郎あて
「動物絵画展覧会に関し報告の件」

◆「文書2-2」

情三第259号 昭和33年3月5日付け
外務省情報文化局長名義
国際文化振興会常務理事あて
「フランクフルト動物絵画展に参加方依頼の件」

◆「文書2-3」

独第245号 昭和33年4月2日付け
在ドイツ特命全権大使武内龍次名義
外務大臣藤山愛一郎あて
「動物絵画展に関する件」

◆「文書2-4」

情三第469号 昭和33年4月17日
外務省情報文化局長名義
国際文化振興会常務理事あて
「フランクフルト動物絵画展に参加方依頼の件」

◆「文書2-5」

草 尾 和 之

情文第209号 昭和33年6月25日附

受信人名 在ドイツ武内大使

発信人名 藤山大臣

「動物絵画展示用作品に関する件」

◆「文書2-6」

独第508号 昭和33年7月8日付け

在ドイツ臨時代理大使上田常光名義

外務大臣藤山愛一郎あて

「動物絵画展示用作品送付方依頼の件」

◆「文書2-7」

情文第983号 昭和33年7月28日付け

外務省情報文化局長名義

国際文化振興会常務理事あて

「動物絵画展示用作品に関する件」

◆「文書2-8」

昭和33年9月8日付け

財団法人国際文化振興会常務理事米沢菊次名義

外務省情報文化局長近藤晋一あて

「フランクフルト動物絵画展出品作品の件」

◆「文書2-9」

電信 平111号 昭和33年9月12日18時41分

在ドイツ武内大使宛

外務大臣臨時代理発

「フランクフルト児童動物画展へ参加の件」

◆「文書2-10」

情文第296号 昭和33年9月12日附

受信人名 在ドイツ武田大使

発信人名 外務大臣臨時代理

「フランクフルト動物絵画展用児童画送付に関する件」

◆「文書2-11」

「List of Works to be sent to the International Animal Paintings Exhibition at Frankfurt」

◆「文書2-12」

情文第296号 昭和33年9月12日付け

外務大臣臨時代理内閣総理大臣岸信介名義

在ドイツ特命全権大使武内龍次あて

「フランクフルト動物絵画展用児童画送付に関する件」

◆「文書2-13」

事務連絡 昭和33年9月19日付け

外務大臣官房文書課名義

在ドイツ大使館文書係あて

「公信訂正方依頼の件」

◆「文書2-14」

独第848号 昭和33年11月21日付け
在ドイツ臨時代理大使上田常光名義
外務大臣藤山愛一郎あて
「フランクフルト動物画展に関する件」
添付

◆「文書2-15」

読売新聞（昭和33年7月20日付け）切り抜き
「西独で児童動物画展」

◆「文書2-16」

（独文書簡）1958年10月27日付け
Dr. H. Drissler 名義
Seijiro shimazaki あて

◆「文書2-17」

3月23日接受
（在ドイツ日本国大使館からの「第37号フランクフルト動物絵画展に対する答贈用児童画
転送方依頼の件付属」を本省外文書課が受け付けた際の伝票）

上の文書により、次のことがわかる。

昭和33年、フランクフルト動物園から、在フランクフルトのドリスラー（Dr.H.Drissler）
日本国名誉総領事を通し、在ドイツ日本国大使館に対し、同動物園内の集会所ホールで日
本の動物絵画展覧会を開催したいとして、次のような照会があった。

- 一、動物絵画（原画が貸出し不可能の場合にはその複製にても可）を蒐集して斯様な
展覧会のために貸与して貰うことが可能であるかどうか。
- 二、可能である場合どの程度の員数か。
- 三、右貸与期間
- 四、経費その他の諸条件

同館は、東京の外務省本省に対し「文書2-1」で以上を伝えた。それをうけて本省は、
国際文化振興会に対し「文書2-2」を発行し、「当方としては珍しい企画でもあり、で
きるだけ先方要望に応えたいと存ずる」と、フランクフルト動物園からの申し入れに応じ
られるか打診した。同文書は上野動物園長にも写しが送られた。

同時に本省は、「文書2-2」と同日付けの文書（ファイルには綴じ込まれていない）で、
在ドイツ日本国大使館に詳細を尋ね返した⁶⁾。

これをうけて在ドイツ日本国大使館は、在フランクフルトのドリスラー名誉総領事に命
じ、フランクフルト動物園に対し詳細を照会させた。その結果、次のことがわかった。

- ・ フランクフルト動物園長「ドクトル・グルチメック(Dr.Grzimek)」は、かつて動物を
主題とするドイツ小学生の絵画を東京都へ寄贈した。その返礼として、上野動物園から
同じく動物を主題とする日本の小学生の絵画30点の寄贈を受けた。
- ・ 同園ではそれらの展覧会を開きたい。しかし枚数が十分ではないため、あと50点を
日本から借用したい。それらは複製でもよい。
- ・ 額縁は同園で用意し、経費も負担する。
- ・ 展覧会はその年（昭和33年）の秋に開催したい。

草 尾 和 之

在ドイツ日本国大使館は以上の内容を「文書2-3」として、本省に伝えた。

本省は「文書2-4」を作成し、それに「文書2-3」の写しを添付して、国際文化振興会と上野動物園に送付した。この「文書2-4」において外務省は、「同動物園は年間二百万人に及ぶ入園者があるので、この催しは日本の紹介に多大の効果があると思われ、同総領事も是非実現方配慮ありたい旨希望している」と申し添えた。

国際文化振興会と上野動物園は協議の上、上野動物園を会場とする動物を主題とする写生会を新たに企画し、その優秀作品50点をフランクフルト動物園に寄贈することにした。作品の選出は8月中、寄贈は9月中旬という計画が立てられたが、それで妥当かどうか、また日本児童の絵画の送付期日について、外務省本省から在ドイツ日本大使館に対し、「文書2-5」で照会が行われた。

在ドイツ日本国大使館は、在フランクフルト・ドリスラー名誉総領事を通し、フランクフルト動物園に照会したところ、同園は国際文化振興会と上野動物園が新たに児童画を募集する計画を進めていることに感謝の意を表した。また、日本児童の絵画を展示しようと考えていた同園の国際児童画展がすでに開催中であることと、ドイツではこの種の催しは9月末で終わるものなので、同園は遅くとも9月初めまでに入手したいと希望していることがわかった。在ドイツ日本国大使館は、これを「文書2-6」で本省に通知した。

「文書2-6」を受けた本省は、「文書2-8」により、国際文化振興会と上野動物園に対し、寄贈作品を8月25日までに外務省本省に送付するようにと通知した。

そこで国際文化振興会が中心となり、上野動物園と大日本文具⁷⁾の協力を得て、寄贈作品を集める目的で、写生会を7月下旬に上野動物園で行うという計画が立てられた。あわせて都下の小学校にも候補作品を募集した。

これについて、当時の新聞（読売新聞昭和33年7月20日付）に次のような記事⁸⁾が掲載された。

「西ドイツで児童動物画展 フランクフルト動物園から申し込み」

日本の子供たちが描いた「動物の児童画展を開きたい」という申し込みが、このほど西ドイツのフランクフルト動物園長、ゲルチメック博士から外務省を通じて国際文化振興会（会長、岡部長景氏）に届いた。このため同会は二十日から二十三日までの四日間、都内台東、文京、千代田、中央四区の小学校児童約千人に呼びかけ上野動物園で写生会を開き、出品作品約百点を選ぶことになった。

これは昨年フランクフルト動物園からドイツ児童画が東京都に寄贈され返礼として上野動物園から動物を主題とした児童画三十点を送ったのがきっかけで「もっと多数の作品と一緒に展覧会にまとめてみたら」と希望してきたもの。国際部文化振興会では写生会に招く四区の児童のほか他の都内各区の児童にも九月五日までに応募作品を同会事務所（港区芝白金台町一の五五）に送ってほしいとっている。なお展覧会は今年秋十月ごろに開かれ教育版画協会（代表大田耕士氏）で選考した児童の版画五十点も同時に出品される予定。

ところが、写生会を予定した7月20、21、23日の3日間はいずれも「風雨」のため延期となり、写生会はようやく8月下旬に実施をみた。その結果、約1000点の絵画の応募があった。9月6日、徹夜で審査会が開かれ、50点が選出された。

また寄贈作品の収集については、上に引用した新聞記事中にもあるとおり、写生会とは別に国際文化振興会から日本教育版画協会にも協力の依頼がなされていたが、そちらの方でも動物を主題とする版画作品の応募が全国からあり、その中から50点が選出された。

国際文化振興会はこれら計100点を外務省本省に送り、「文書2-8」でドイツへの送付を依頼した。あわせて、それらの作品はドイツの教育機関に寄贈するとの了解が応募者に得るので、展覧会終了後、しかるべき筋に提供してほしいこと、またこれを機会に日本でドイツ学童絵画作品展を開いてわが国学童に紹介し、あわせて教育者の研究資料としたので、この計画の実現に便宜を取りはからってほしいと伝えた。

本省は在ドイツ日本国大使館に、作品を「文書2-10」に添付して9月12日発の飛行機で送り、かつその旨を電信⁹⁾で伝えた。「文書2-10」において、本省は在ドイツ日本国大使館に対し、写生会が延期されたため作品の送付が遅れたという事情を伝え、作品をフランクフルト動物園へ転送するよう依頼した。あわせて国際文化振興会から、画題は随意でよい、年末頃までにドイツの1小学校の児童画約50点を収集し、送付、寄贈してほしいとの依頼があったことを伝えた。また国際文化振興会と上野動物園のほか、日本教育版画協会と大日本文具の協力により、作品送付が実現したことも申し添えられた。

「文書2-10」には作品リスト¹⁰⁾も添付された。本稿末に(別表2)として拙訳を付ける。

こうして日本から送付された動物を主題とする児童の絵画と版画は、在ドイツ日本国大使館に受け取られ、在フランクフルト・ドリスラー名誉総領事を通じフランクフルト動物園に寄贈された。

フランクフルト動物園における展覧会の模様は、のちに同名誉総領事から在ドイツ日本国大使館に報告¹¹⁾があった。同館は本省にあて「文書2-14」において

(略)、本図画及び版画展はさきに夏期シーズン中フランクフルト動物園にて開催された国際児童画展に参加させる予定であったが、到着が遅れたので、右参加は不可能となったが、何れも優秀作品であるので特に単独展として開催することとなった趣であり、今年末まで継続展示され、同園の入園者及びレモンド劇場観客一般に公開されている外多数の学童団体の参観を受けている由である。

と述べたうえ、同名誉総領事の報告として次のように報告した。

本動物園画及び版画100点は、十月二十三日よりフランクフルト動物園ホールにおいて、さきに同園長が上野動物園長より寄贈を受けた動物画三十点と共に展示された。右展覧会の開催に際しては、報道関係者が招待され、フランクフルト動物園長グリュイメク博士及び本官(名誉総領事)が祝辞を述べた。フランクフルト市各新聞は本展についての記事を掲載し、本件図画及び版画の優秀性並びに日本児童の表現力を高く評価した(別添2号関係記事切抜参照)。

なお、フランクフルト市参事会員グレス教授は国際文化振興会よりの本件図画及び版画の寄贈に対し深甚の謝意を表明し、右に答えるため同市各校の学童より約五十枚の児童画を集め同会に答贈することを約束した。

上の引用文のおわり部分にあるドイツの児童画を日本の国際文化振興会へ寄贈する件は翌年果たされた。すなわち昭和34年3月23日に外務省本省に到着し、良く24日に国際文化振興会に引き渡された¹²⁾。

本件事業について、ファイルに所収の文書から知ることができたことは以上である。

3. 昭和35年、日独青少年交歓派遣団の寄贈作品によるボン市 Paul-Gerhardt Schule における展覧会

史料ファイル内に設けられた目次の第9番目に「ドイツ」という見出しがあり、ここに昭和35年にボン市Paul-Gerhardt Schule において開催された日独青少年交歓派遣団の寄贈作品による展覧会に関する文書が収められている。それは次の2件である。

◆「文書3-1」

公信番号情文第1107号 公信日付昭和35年12月7日

受信者 (千葉県)木更津市長(浜名儀三)

発信者 情報文化局長

「ボン市における日本児童画展に関する件」

◆「文書3-2」

独第1064号 昭和35年11月18日付け

外務大臣小坂善太郎あて

在ドイツ臨時代理大使竹内春海名義

「ボン市Paul-Gerhardt-Schule における日本児童画展に関し報告の件」

上の文書により、次のことがわかる。

昭和33年春に日独青少年交歓派遣団がボン市を訪問した際、団長である浜名儀三木更津市長からボン市長Danielに、児童画と習字を寄贈した。それは犬山市、金沢市、小樽市の「多数」の小学校と犬山中学校の生徒によるものであった。

このときの作品によって、昭和35年11月7日より11日まで、ボン市のPaul Gerhardt Schule において、日本児童画展が開催された。

11月7日午後4時から、同校講堂において開会式が催された。ボン市のオーエン(Oyen)視学、市参事会代表、ボン市各小学校校長並びに教育関係者等50数名が参列した。在ドイツ日本国大使館からも島崎理事官が参列した。

このとき開会にあたりオーエン視学があいさつをしたが、そのあらましが「文書3-2」により本省に報告された。次に引用する。

この展覧会は日本とドイツの交友関係を生み出すための試金石である。ボン市は民族間の理解のための懸橋を架けるために最も有利な地位を占めている。言葉に次いでその国の芸術作品はその国を理解するための典型的な材料であり、芸術の世界は観察者をして他の民族の異国風なものと同様に日本独特のものを表現しているのみならず、またすべての人類に共通のもの—踊りの楽しみ、燈火を慕い人々が楽しく集まる喜び—を表現している。この展覧会には小学1年生から中学3年生までの学童の多数の習字とともに百枚以上にのぼる図画が展示されているが、クレパス画や水彩画は特に注目に値するものであり、これらの画法はドイツにおける芸術教育の慣習と著しく異なるものである。また日本の子供達はドイツの子供達に較べて大勢の人を絵に画くのに非常に勇気があるようである。どの図画を見ても大勢の人々に出会い—仕事場でも遊山においても—すべての作品は力強くそして愉快的な着色により人目を引いている。今回開かれたこの展覧会を通じてドイツの児童が日本に対する理

解を深めることができることは誠に有意義である。

上の挨拶においてオーエン視学は、日本の児童生徒による図画を「建築や風俗と同じように日本独特のものを表現している」「クレパス画や水彩画は特に注目に値するものであり、これらの画法はドイツにおける芸術教育の慣習と著しく異なる」「日本の子供達はドイツの子供達に較べて大勢の人を絵に画くのに非常に勇気があるようである」と評していることに注目したい。最後の評で日本からの児童生徒の作品に大勢の人が描かれていることがわかるが、同じあいさつの中に「踊りの楽しみ、燈火を慕い人々が楽しく集まる喜び—を表現している」「仕事場でも遊山においても」とあるから、具体的には祭礼や盆踊り、学校の運動会や遠足などの行事、あるいは田植えなどの農作業や工場内の様子などが描かれているのかもしれない。しかしこんにち、日本の児童生徒は多くの人物を描くことをためらうのが一般的ではなからうか。また「すべての作品は力強くそして愉快的な着色により人目を引いている」という評も、こんにちの日本の児童生徒作品と違うところであると私は感じる。

なお「文書3-2」には、この展覧会を報道する現地の「General Anzeiger」紙の切り抜きが添付され本省に送付されたことが記されているが、ファイルには残されていない。

おわりに

本稿で取り上げることができた事業3件は、児童画による国際交流事業から見た美術教育史という観点から、それぞれ重要な内容を含んでいる。

1件目の「昭和35年、西ベルリン市ヴェディング区から姉妹都市布施市への寄贈」と2件目の「昭和33年、フランクフルト動物園における日本児童の動物絵画展」については作品リストが得られることから、どのような作品が交換されたのかおおよそ想像することができる。また1件目のリストはドイツ連邦共和国（西ドイツ）の子どもの作品リスト、2件目のは日本の子どもの作品リストである。2件目は動物の絵画というテーマの指定があるものの、両者を比較して興味深い。さらに2件目の作品リストには出品した学校名も記されていることから、今後同様の資料が集積されれば、美術教育が盛んであった、あるいは相当の水準を持っていた学校を、その指導者との関係も含めて明らかにすることができるであろう。

さらに3件目「昭和35年、日独青少年交歓派遣団の寄贈作品によるボン市 Paul-Gerhardt Schule における展覧会」では、日本の児童画に対するオーエン（Oyen）視学の評を知ることができる。教育の専門家による批評であり、我が国の美術教育を外部から批評したものとして貴重である。今後同様の批評が集積されれば、日本の外から見た、もう1つの日本美術教育史を得ることができよう。

主催者や作品提供の協力者について注目すると、2件目は学校ではなく動物園という社会教育機関である。また公益法人である「国際文化振興会」は昭和戦前期から児童作品による国際交流事業に深く関わっているし、大日本文具という企業（絵の具会社）や「教育版画協会」（民間教育運動団体）も永らく児童作品による国際交流事業に盛んに関わっている。これら学校以外の機関が美術教育に果たした役割も視野に入れて見直すと、美術教育史の違った一面が見えてくるであろう。

公開された史料の全体をできるだけ早く明らかにすべく、今後も調査、研究を続けていきたい。

草尾和之

(別表1)

ヴェディング区役所, ベルリン市
 区長
 V A 1

ベルリン, 1960年8月4日
 N65, ミュラー通り, 146/147

日本国布施市における展覧会へのヴェディング区生徒作品リスト

木箱1

符号: BW1 布施/大阪

内容: ボール紙に貼られた生徒の図画61点

番号	作品名
1	ランタン行列
2	人形劇
3	怒った犬
4	〃
5	庭での洗濯
6	体育の時間
7	〃
8	遊ぶ子ども達
9	〃
10	水浴びを楽しむ
11	動物園で
12	雨天
13	ハーヴェル川での日曜日
14	花人形
15	〃
16	〃
17	水中庭園
18	嵐
19	〃
20	地下鉄
21	(年の市の立つ) 広場
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	ラウム駅
27	色彩練習
28	a,b,c Stra ß enbau
29	Hinterglasbild
30	hochzeitsbild
31	肉屋

番号	作品名
32	〃
33	窓際の猫
34	雨降り
35	夜の不思議な現象
36	〃
37	私の友達
38	私の女友達
39	〃
40	網の魚
41	〃
42	幽霊
43	ひげを剃る父
44	深皿の果物
45	Stra ß e und Häuser
46	Stra ß enbau
47	〃
48	〃
49	幽霊城
50	原生林の蛇
51	〃
52	〃
53	a,b 植物
54	檻の猛獣
55	〃
56	フクロウ
57	a,b 土の中の宝石
58	魚
59	〃
60	〃
61	調教師

児童画の国際交換・対ドイツ連邦共和国・昭和30年代—公文書による—

木箱 2

符号：BW 2 布施／大阪

内容：ボール紙に貼られた生徒の図画65点

番号	作品名
62	私のおば
63	私のおじ
64	私の従兄弟
65	気球と飛行船
66	〃
67	〃
68	びん、花びん、かめ
69	〃
70	積氷の中の船
71	工場
72	〃
73	山腹の家々
74	〃
75	花の咲いている木と低木
76	晩秋のグルーネヴァルト
77	〃
78	魚
79	〃
80	〃
81	想像の原生林
82	〃
83	〃
84	〃
85	屋根屋根のながめ
86	〃
87	a) 風船 (あるいは気球?) b) 冬の木々
88	家々
89	a,b コンパスの練習
90	窓枠
91	大枝、枝、支柱
92	〃
93	がらくた

番号	作品名
94	星の付いた建築
95	〃
96	〃
97	〃
98	魚の群れ
99	葉 (複数)
100	a,b 埋もれた都市
101	線による構成
102	〃
103	〃
104	〃
105	〃
106	〃
107	〃
108	私の部屋, デザイン案
109	a,b 小宇宙 (カレンダー)
110	a,b 〃
111	文字と色
112	〃
113	建築
114	〃
115	〃
116	〃
117	花瓶の様式
118	〃
119	〃
120	〃
121	〃
122	線画
123	a,b 線画
124	a,b 線の構成
125	a-b 学校新聞の題名部分デザイン
126	a-b 〃

草尾和之

木箱 3

符号：BW 3 布施／大阪

内容：紙のレリーフ 4点

番号	作品名
127	歴史的な衣装
128	〃

番号	作品名
129	〃
130	〃

木箱 4

符号：BW 4 布施／大阪

内容：段ボール紙と板に描かれた壁絵（原文Wandzeichnung auf Wellpappe und eine Schrifttafel）

番号	
131	作品名：港湾都市
132	タイトル文字："Berlin to day" (原文のママ)

（筆者註）訳せないものは原文のまま記した。（筆者注）例えば、作品番号28の欄にa,b,c, とか、作品番号53の欄にa,b などとあるのは、展示の都合から1枚の台紙に複数の作品が貼り付けられて、展示物としては1点と数えられているのであろう。

児童画の国際交換・対ドイツ連邦共和国・昭和30年代—公文書による—

(別表2)

「フランクフルトにおける国際動物画展覧会に送られる作品リスト」

No.	題名	技法	作者名	年齢	性別	学校名	学校所在地
1	馬	木版 ¹³⁾	ワタハ ¹³⁾ ヒデ ¹³⁾ オ	6	男	坂の上小学校	長野県小諸市
2	タマとチイ	〃	フルサキ ジンイチ	6	男	〃	〃
3	ライオン	紙版 ¹⁴⁾	ヤマウチ ケニミツ	7	男	祖父江小学校	愛知県中島郡
4	象	〃	イワタ ヒデ ¹⁵⁾ オ	7	男	坂の上小学校	長野県小諸市
5	動物園	〃	アトウ ケンジ ¹⁵⁾ ほか6名による共同制作	7	男	Ohchi ¹⁵⁾ 小学校	長野県下伊那郡阿智村
6	牛	〃	ソハラ ノリフミ	8	男	〃	〃
7	象	スクラッチボード ¹⁶⁾ プリント	イタ シゲル	8	男	明倫小学校	鳥取県倉吉市鍛冶町
8	猫	〃	コトウ ジュンコ	8	女	〃	〃
9	猫	〃	スワラ マリ	8	女	〃	〃
10	セミ	銅版(ドライ ¹⁷⁾ プリント)	シオサワ ヒデキ	9	男	Ohchi ¹⁷⁾ 小学校	長野県下伊那郡阿智村
11	人と荷車	木版	ヤシマ タミオ	10	男	荒川小学校	東京都荒川区
12	牛(単数)と子ども(複数)	〃	キハタ ヨシキ	10	男	加茂小学校	石川県羽咋郡
13	馬の餌やり	〃	ミナミ イチロウ	10	男	〃	〃
14	牛	〃	キムラ リョウジ	10	男	〃	〃
15	牛(複数)	〃	フクシマ ショウイチ	10	男	〃	〃
16	牛	〃	オオタニ ヒデカズ	10	男	〃	〃
17	風景と動物(複数)	〃	キハタ ヨシキ	10	男	〃	〃
18	猫	〃	ハヤシ ショウスケ	10	男	明倫小学校	鳥取県倉吉市鍛冶町
19	牛	〃	ヤマモト コウスケ	10	男	〃	〃
20	犬と競争	〃	ホリ ミツル	10	男	〃	〃
21	犬, 私の良き友達	〃	キジモト タカシ	10	男	〃	〃
22	犬	〃	トクナガ マサトシ	10	男	〃	〃
23	乳しぼり	〃	カウ ヒロシ	10	男	〃	〃
24	鶏小屋のめんどり(複数)	スクラッチボード ¹⁶⁾ プリント	ヨシモト ルイコ	10	女	〃	〃
25	田を耕す	銅版(ドライ ¹⁷⁾ プリント)	サワイ ケニヒコ	11	男	Ohchi 小学校	長野県下伊那郡阿智村
26	牛	木版	モリタ ノブツヨ	11	男	明倫小学校	鳥取県倉吉市鍛冶町
27	私のウサギ	〃	タニウチ ヒデハル	11	男	加茂小学校	石川県羽咋郡
28	牛	セルロイド ¹⁸⁾ 版(ドライ ¹⁷⁾ プリント)	ミヤザキ マコト	12	男	明倫小学校	鳥取県倉吉市鍛冶町
29	犬(複数)と散歩	〃	フジイ テツキ	12	男	〃	〃
30	牛	〃	トクナガ ヒロシ	12	男	〃	〃
31	馬(複数)	〃	オカガワ スミコ	12	女	〃	〃
32	めんどり	〃	マスタ ¹⁹⁾ ツネノリ	12	男	〃	〃
33	馬	〃	ホソカワ タエコ	12	女	〃	〃
34	馬	〃	フクイ ユミコ	12	女	〃	〃
35	牛市場	〃	マツハ ²⁰⁾ ラ サダオ	12	男	〃	〃

草尾和之

36	めんどり（複数）とおんどり（複数）	〃	シラミス ¹⁷ ヒデ ¹⁷ ノリ	12	男	〃	〃
37	牛	セルロイド ¹⁸ 版(ト ¹⁸ ラ体 ¹⁸ イソト)	マスタ ¹⁸ ツネノリ	12	男	〃	〃
38	荷車	木版	ノジ ¹⁹ マ カツヒコ	12	男	〃	〃
39	ヤギの乳しぼり	〃	ワタナ ¹⁹ ヘ ¹⁹ イワオ	12	男	〃	〃
40	私たちの牛	〃	モリシタ ¹⁹ ノア ¹⁹ ツヨ	12	男	〃	〃
41	牛の世話	〃	キジモト ¹⁹ ツトム	12	男	〃	〃
42	乳牛	〃	ナカム ¹⁹ モリユキ	12	男	〃	〃
43	猫	〃	ヨシカワ ¹⁹ ハツエ	13	女	堺中学校	東京都町田市
44	牛（複数）	〃	アミノ ¹⁹ タケサタ ¹⁹	13	男	〃	〃
45	ライオン	紙版 ¹⁸	(男子氏名A) ¹⁹ (知的障害児) ²⁰	13	男	Aisenkai-Karuzawa Chiikuen (知的障害児施設) ²¹	長野県軽井沢市 (原表のママ)
46	昔の動物（複数）	木版	〃	13	男	〃	〃
47	夢の荷車	〃	(男子氏名A)と (女子氏名B) (知的障害児)	13 15	男女	〃	〃
48	猫	〃	〃	〃	〃	〃	〃
49	犬	〃	〃	〃	〃	〃	〃
50	牛	紙版	(男子氏名C) (知的障害児)	15	男	〃	〃
51	ヒョウ（複数）	クレヨン	ミナミ ²⁰ タカキ	7	男	誠之小学校	東京都文京区西片町
52	ライオン	〃	ニカイト ²⁰ ウケイコ	7	女	〃	〃
53		〃	ママタ ²⁰ ケイコ	7	女	〃	〃
54	象（複数）	べんてる水彩	スイト ²⁰ タクノリ	8	男	白金小学校	東京都港区芝白金
55	動物園	クレヨン	ツチダ ²⁰ ススム	8	男	〃	〃
56	象	〃	ウエムラ ²⁰ マサヨ	8	女	真砂小学校	東京都文京区
57	動物公園	〃	ヒゲ ²⁰ ラシ マサト	8	男	狛江小学校	東京都北多摩郡
58	乗馬	〃	フルカワ ²⁰ マサキ	9	男	白金小学校	東京都港区
59	ライオン	〃	トサカ ²⁰ マサヨシ	8	男	王子小学校	東京都北区
60	ペリカン舎 ²²	〃	イズミ ²⁰ シロウ	9	男	桜丘小学校	東京都世田谷区
61	鳥（複数）	〃	シント ²⁰ ウ フキヤス ²³	9	男	淡路小学校	東京都千代田区
62	象（複数）	〃	セキガ ²⁰ チ ムネヒロ	9	男	真砂小学校	東京都文京区
63	象	べんてる水彩	カシワキ ²⁰ ヨウコ	10	女	〃	〃
64	木曾の馬	〃	オクムラ ²⁰ ヒトシ	9	男	〃	〃
65	象（複数）	〃	イシカワ ²⁰ シンイチ	10	男	〃	〃
66	カンムリツル（複数）	〃	カネコ ²⁰ サトシ	9	男	築地小学校	東京都中央区
67	カンムリツル（複数）	〃	ヨネタ ²⁰ サチコ	10	女	〃	〃
68	カンムリツル（複数）	〃	マルヤマ ²⁰ カス ²⁰ アキ	9	男	〃	〃
69	カンムリツル（複数）	〃	ナカカワ ²⁰ ヨシオ	10	男	〃	〃
70	カンムリツル（複数）	〃	セシミ ²⁰ コタロウ	9	男	〃	〃
71	象（複数）	〃	タナカ ²⁰ ヨシノリ	10	男	〃	〃
72	ライオン（複数）	〃	アカマツ ²⁰ ミト ²⁰ リ	10	女	誠之小学校	東京都文京区
73	動物（複数）	〃	ウエノ ²⁰ ヒトミ	11	女	〃	〃
74	カモメ（複数）	〃	ウエノ ²⁰ マサコ	10	女	〃	〃

児童画の国際交換・対ドイツ連邦共和国・昭和30年代－公文書による－

75	象（複数）	〃	シハ ^レ ヒロシ	9	男	〃	〃
76	象（複数）	〃	ゴ ^レ ミ ハルオ	9	男	〃	〃
77	水鳥（複数）	〃	サカイ タカコ	9	女	〃	〃
78	象（複数）	〃	サカモト ショウジ ^レ	10	男	王子小学校	東京都北区
79	キリン（複数）	〃	コジマ ヤスコ	10	女	〃	〃
80	動物（複数）	〃	マツイ シオリ	11	女	誠之小学校	東京都文京区
81	キツネ（複数）	〃	キリュウ カズトシ	11	男	〃	〃
82	水鳥（複数）	〃	タカハシ トシオ	10	男	〃	〃
83	動物（複数）	〃	ニシタニ エイコ	11	女	〃	〃
84	鳥	〃	カツウ カツオ	11	男	桜丘小学校	東京都世田谷区
85	鳥小屋	〃	ナカムラ (鞋のみ)	11	(空白)	〃	〃
86	象（複数）	〃	ナカムラ ミヨコ	11	女	真砂小学校	東京都文京区
87	カンムリヅル（複数）	〃	ニシムラ キヨコ	11	女	築地小学校	東京都中央区
88	カンムリヅル（複数）	〃	イシグ ^レ ロ エリコ	11	女	〃	〃
89	ライオン	〃	ヨネヤマ テイイチ	12	男	〃	〃
90	カンムリヅル	〃	スキ ^レ モト カズ ^レ ヒコ	11	男	〃	〃
91	象（複数）	〃	ウルカ ^レ セツコ	11	女	〃	〃
92	カンムリヅル	〃	オカタ ^レ ハルノブ ^レ	11	男	〃	〃
93	シカ	〃	ムラマツ ミツオ	11	男	誠之小学校	東京都文京区
94	オランウータン（単数） とゴリラ（複数）	〃	クロカワ カツノシ	11	男	〃	〃
95	動物（複数）	〃	ワタナベ ^レ マサヒロ	12	男	桜丘小学校	東京都世田谷区
96	ペンギン（複数）	〃	スキ ^レ ヤマ エリコ	12	女	〃	〃
97	ハト（複数）	〃	イシグ ^レ ミエコ	12	女	〃	〃
98	クマ（複数）	〃	スナカ ^レ ヤスヒコ	12	男	〃	〃
99	森の動物（複数）	〃	カワイ ミサコ と サカキハラ ヨシコ	12 12	女 女	〃	〃
100	山の上の猿（複数）	〃	アライ リョウコ	12	女	淡路小学校	東京都千代田区

※ 題名欄の（複数）（単数）は原表の表記にもとづき、本稿筆者が記入した。特に記入がないものは単数形である。

《註》

- 1) 東京都港区麻布台1-5-3
- 2) 平成9年度の事業であるが、実際に公開されたのは平成10年度になってからである。
- 3) 布施市がヴェディング区と姉妹都市関係を結んだ経緯については、東大阪市の公式webページに「本市との姉妹都市提携は、1959年に布施市（1967年に河内市、枚岡市と合併し東大阪市となる）の当時の市長であった鈴木義伸氏が、ベルリン市で開催された第14回国際地方自治体連合会議に参加した際、ウィリー・ブランド ベルリン市長（のちの西ドイツ首相）のあつ旋を受け、ヴェディング自治区との姉妹都市提携が同年8月12日に結ばれました。それ以後、青年の交換派遣や文化交流などを通して親善を深め合っています」との説明がある。
- 4) 「文書1-2」
- 5) 同じ文書の写しや清書が綴じられている場合は省いた。
- 6) 「文書2-1」によりわかる。
- 7) 現べんてる株式会社
- 8) 「文書2-15」
- 9) 「文書2-9」はその記録である。
- 10) 「文書2-11」のこと。
- 11) 今回は訳せなかったが、散見される固有名詞や文書の日付から「文書2-16」であろう。
- 12) 「文書2-17」に、「三月二四日 左記ノ品受取りました」と記入がある。
- 13) 原表では「Wood Block Print」
- 14) 原表では「Paper cut Print」
- 15) Achi（阿智）の間違いか。
- 16) 原表では「Scratch Board Print」
- 17) Achi（阿智）の間違いか。
- 18) 原表では「Paper cut Print」
- 19) 本稿筆者の判断で伏せた。（女子氏名B）（男子氏名C）についても同じ。
- 20) 原文では「A weak-minded child」
- 21) 原表では「Home for feeble-minded children」
- 22) 原表では「Pel's House」
- 23) 原表では「Shindo Fumiyasu」。Shindoの読みは「シンド」かもしれない。